



中田植の起源ははっきりしませんが、近津神社では重要な行事の一つであるお耕廻しの開始を建久二年（一一九〇）と伝えており、中田植も同じ頃から始まったのではないかと考えられています。

太陰太陽暦（旧暦）では、夏至は「五月中」にあたり、中田植の名称は、田植祭が夏至の日に行われることに由来します。かつては、この日を目標に田植を終わらせ、ご馳走を作り、家族揃って近津神社に参拝に行きました。中田植は、田植が無事に終了し、田の神に感謝する「早苗饗」でもあり、農繁期における大切な休日でした。

中田植当日は、苗取歌と田植歌の奏楽、一五名の早乙女による田植えが行われ、当日の境内でははしかくぐりなどの風習も残っています。

平成二五年一二月には中田植保存会が発足し、同二六年九月二四日に「近津神社の中田植」として大子町指定無形民俗文化財の指定をうけました。

晴れ渡る青空の下での田植えも良し、雨音の中での田植えもまた良し。悠久のひと時を御観賞しにいらして下さい。

大子町指定無形民俗文化財

ちかっ

近津神社の

ちゆうだうえ

中田植

御田植祭

平成30年

6月21日(木)

夏至

場所 茨城県久慈郡大子町下野宮1626

(水郡線下野宮駅より歩いて5分)

時間 10時〜12時頃まで

参拝客との交流を兼ねた
餅つき(無料)と
中田植市(朝市)を行います。



アクセス
お車 水戸から約75分
電車 水戸から水郡線(郡山行き)で約90分
郡山方向から水郡線(水戸行き)で約100分
当日、神社前の旧下野宮小学校グラウンドが駐車場となります



前夜祭 20日(水)
宵灯籠 18:00~21:00

下野宮 近津神社
中田植